

今までの意見整理（地域防災力の向上について）

平成20年(2008年)6月28日

滋賀県流域治水政策室

新しい災害文化づくりを目指して

テーマ

「三方よし」の精神
(近江商人の家訓から)
・売り手 (行政) よし
・買い手 (住民) よし
・世間 (地域) よし
(杉本委員)

自分で守る
みんなで守る
社会で守る
(松尾委員)

災害で人命を失わない
ために
(杉本委員)

人の命を失わない

災害は広く長く意識を
誰もがもつが大切
(松尾委員)

自己管理
先ず自分の身を守る
家族を守る
地域を守る

河川を地域に返す
・河川管理をやめる
・情報提供をやめる
↓
膨張する行政をやめる

情報

気づきの情報(新しい情報)

行政、マスコミとして水
害への情報発信
(せめて地震並みに)

地域の安全マップをつ
くる中で、洪水のことを
取り入れる

ホームページの公開は、
本当に公開になっている
のか?
ハザードマップでの公
開はそれでいいのか?

県内で数か所良い例を
早く立ち上げ、見本とな
る例をつくること
(杉本委員)

河川の危険性について、
行政情報を多くする

由良川
本→人に来てもらう→
人の体験を聞く→実際
に見に行く

いつも川の様子をよく
知っておく

浸水想定区域図の公表

情報 (雨量や水位) を
知りやすくする方法

この会議を住民に
←行政支援

山、川など草刈をしたり
美しくしておく

洪水ハザードマップの
配布

降雨状況に応じた災害
発生への対応

リスク情報の集中 (水害
だけでなく、地震、土砂、
火災などあらゆる情報を
集約する)
有事の際にどこから情
報を得るのかを知る

会議所に必ずハザード
マップを掲示しておく

携帯電話を利用したリ
スク情報の発信

行政からの情報 (雨量
等)
受け手に実感が持てる
表示の工夫が必要

日野川に大雨が降った
場合の増水の計り方
住民にわかりやすく伝
える

情報があることを知ら
ない
(地域の情報を知らない
と計画は立てられない)

浸水想定表示板の設置

災害時要援護者が参加
した防災訓練の実施

行政ができること・でき
ないことについての説
明
(成宮委員)

災害が起きたとき (新しい情報)

雨量情報→川の情報と
連動させる

水害時、台風時等、上流
から下流への知らせを
早く伝える

洪水予報、避難判断水位
情報の提供

水防警報の発表
水防区域の公表

リアルタイムの雨量水
位情報の発信

自主避難のためのルー
ルづくり
・浸水の目安のお地藏様
・半鐘による伝達
(大橋委員)

その他

情報を出す側ではなく、
受ける側から考えた見
方

四川大地震で普及活動
のチャンス
土石流
(松尾委員)

土石流への対応も大切

琵琶湖の増水、溢水対策
も考える必要がある

気づきの情報

リスク情報

気づきの情報(古い情報)

身をもって体験された
方を講師にお願いする

形のある知恵を实际に
つくる
(例：仏壇の滑車)

昔の生活の知恵を次世
代に伝える

・地域の情報
・昔の知恵
・川の流れの強さ
も書き込まれたハザード
マップの作成
(北井委員)

地域における災害史の
作成

共有 (住宅、集落、行政
の各課)
伝承 (世代…) →楽しく

昔の生活の知恵が参考
になる

洪水位標による水害記
録の伝承

気づき (予防するため)
の情報発信とリスク情
報の発信

先進的な取り組みを行
っている地域と交流す
る。
(松尾委員)

水害写真掲示板
できたら実際の場所に
写真パネルのようなも
のを設置する
(北井委員)

災害が起きたとき (文化的・在地的情報)

半鐘 (実際に危険を知ら
せる物、手段のもの) を
使ってみる
防災無線と比べてみる
(北井委員)

半鐘によるリアルタイ
ム情報の伝達
(大橋委員)

夜間の増水の知らせ
水害
堤防が危ない
家族の中では連絡がで
きない場合
→スコップをたたく

地域独自の避難判断の
目安の共有 (お地藏さま
など)
(大橋委員)

スコップやフライパン
を鳴らして、周囲の人に
有事を知らせる
(音の伝達方法)

新

古

人

地域の防災活動

災害時、町内での連絡網の設置と連絡方法
高齢者、障害者の把握
住民マップの作成

住民協働による洪水ハザードマップづくり

ハザードマップは、地元
の住民の方々との共同
作業で作る

自分の避難マップをつくる
・どこに逃げるか
・どこにある何を持って行くか
・上に上げる物は何か
家の中のことと家の外
のことをのせる
(北井委員)

自分の地域の危険箇所
などを知る DIG (災害図
上訓練) の実施
(中井委員)

災害発生後の仕組み
・災害前、中、後の対応
を考えておく
・土砂出しの危険性
・破傷風、感電の可能性
もある

想定される洪水の状況
に応じた対策を考える
(内水、洪水(破堤))

ちょっとした工夫、アイ
デアを出し合って自己
啓発

人材の育成・活用

出前講座

ハザードマップの内容
等についての出前講座
(成宮委員)

各集落によって状況が
異なるので、集落(身近
な)単位での研修や個別
指導

地域ボランティア組織
をつくり、地域プロデュ
ーサーの育成

防災ボランティアの任命

地域のリーダーを育てる
防災力を高める

会議に自治会長さんに
来てもらう

地域防災を推進させる
時に地域の悩みに応え、
相談にのったり、地域と
行政との間を調整する
人

(コーディネーター?
レンジャー?)

どうリーダーを作る
か?意識を高めるか?
必ず災害は来る!

若い人は昔の人の話を
あまり聞かないので、映
像を持って説明する

災害に関する情報の見
方・使い方の周知
(松尾委員)

ヴィジュアルモチベー
ションを高める工夫

その他

流域内の治山に対し、流
域内住民として法人か
らCSR意識を醸成さ
せる広報をもつ
(成宮委員)

防災に関する自治会活
動が大切

住民自身で河川を観察
し、避難を行う仕組み

訓練

危険箇所の点検

防災訓練で知識を身に
つける

降雨時での防災活動の
実施
→被害時に近い状況で
の避難活動を体験し、
問題点、課題を知る

住民の危機意識の継続
が難しいので、定期的
に交流会や訓練を行う

リアルな状況での訓練

訓練を行う時に実際の
現象を考えて避難所や
経路を考える

洪水ハザードマップを
活用した災害訓練

直近の水害を参考にし
た防災訓練の実施

訓練(消火や地震避難)の
工夫(想定のおもむき)

河川改修の進捗に応じ
た防災活動の実施
(松尾委員)

企業と連携した避難所
の設置と避難訓練

夜間の防災訓練
(松尾委員)

災害時要援護者が参加
した防災訓練の実施

水害が起こる、被害を受
けるかもしれないとい
う声に住民が目覚める
異常気象、台風、竜巻、
集中豪雨

次世代への伝承

次世代へ継ぐ(連継)
・子供たちへつなぐ
・子供を対象にしたもの
・子供をよんで親の勉強
になる
(石津委員)

世代継続
中高生に出前講座
(災害・防災活動)
(松尾委員)

世代継続
若者と古老との会話
(災害の伝承)の設営
(松尾委員)

親から子、孫へと共通の
災害の意識の共有
(松尾委員)

体験した洪水の話を若
い方達に伝える

子供たちへの伝承
たとえば学校教育とか
地域の活動とか
他の団体との協力

小学生向き学習をする
地震が起きる仕組みと
か知識を身につける

地域のマップ(危険箇
所)や老人、子供等と情
報の共有化
地域の経験から生まれ
た蓄積に触れる機会や
地域を歩く機会を作る

地域での水害学習会の
開催

生徒自ら自分の親、祖父
母から水害体験、工夫を
聞き、自分達でできるこ
とを考えるプログラム

学問ではなく、体験から
の話が重要

高齢者による地域の水
害の特徴を伝承する

村日記や字誌などによ
る水害記録の伝承

三世代交流による水害
体験の伝承

副読本を活用した学校
での防災教育

小学校の授業での水害
学習会

組織

組織活動のための助成・きっかけづくり

水害関連の碑や写真パネルにQRコードをつけるなどして、全部まわったら賞を出す、さらに説明が出る等成
(北井委員)

住民団体への資金援助のきっかけを与えるその後、どういったフォローをすることで活動が継続するのか！

新居浜の事例：県知事の一声で県内企業が動く(入札条件) (正村)

活動のきっかけを行政が提供する (成宮委員)

きっかけは与えるけど続かない
→どう支援すべきか

防災活動への報奨・表彰によりやる気を促す (松尾委員)

訓練がマンネリ化にならない様

防災活動への助成金を出す (松尾委員)

携帯電話を用いた河川管理者への現地写真の送信 (杉本委員)

他の活動と一緒に！

水防訓練の作業をゲームのようにしてイベントにとり入れる (運動会など) (北井委員)

地域の行事に合わせて防災活動を行う (松尾委員)

夏祭りや××産業フェアなどで防災啓発をする

県下一斉清掃の後に防災研修を行う (中村委員)

集落での防災活動
火事だけでなく水防や地震も一緒にするとか

環境活動などに防災の要素も加える (中井委員)

町内イベント等の際に堤防(該当地域のみ)を通るか

多様な年齢層が集まるイベントなどを利用して災害学習を行う (歯黒委員)

洪水体験を思い出させるための祭の開催 (中井委員)

今ある組織の見直し

自治会組織の見直し
・1年交代で役が変わること
・昔の文献を使えない
・集会に集まらなくなっている
(石津委員)

消防団の見直し
定員の高齢化・団としての仕組みを考えていかないと機能できない

地域防災力→消防団→自主防災組織
⇒どうテコ入れするか

新しい組織(仕組み)づくり

メンバーの選定
水防団・消防団
川づくり会議メンバー
環境NPO
企業集団
(三方よし推進事業支援企業)
(杉本委員)

水害は起こることを知る→水防会をする

協働による「自主防災組織づくり」
また、その役割が大切

地域の特徴を出した仕組みづくり

防災組織つくる
気づき(先人の知恵)→防災組織

新興住宅地における防災組織づくり (中村委員)

団体ができてきた
→できていない所にどう支援する？

地元の企業が参画した自主防災組織づくり (中村委員)

補助的組織・養成機関づくり

ボランティアの創設
地域への参加の時の説明補助者

防災活動を優先できる企業のバックアップ体制の構築 (杉本委員)

防災会(自治会)の人材を養成する機関 (成宮委員)

川を見回り、情報を管理するレンジャーの配置 (一般傍聴)

自主防災組織の活動の相談役や後押し役の設置

ネットワーク

関心がある人同士の連携

地域災害ボランティアとの連携

県内ネットワークの構築(関心ある人)

川を愛する共同の仕組みづくり

官民学の連携

災害流域調査
官学民による協働 (松尾委員)

専門分野の人々の参加要請

行政マンだけでなく、専門家のアドバイスやフォローアップが必要

青年団、議員、行政マンが主体的な役割を担う

地域間の連携

流域内のポイントオリエンテーリングを行い、地域交流のきっかけをつくり、上下流の総合的な防災意識を高める(上下流コミュニケーション) (成宮委員)

自分たちの地域は自分たちで守る
お互いが助け合って安全を確保する
各流域毎に連携できるようにする

一つの集落だけでなく流域単位の訓練

地区間で災害時に協力し合う防災協定の締結 (石津委員)

地域内での連携

消防と警察の自警団連携 (正村)

若い世代や新興住宅の住民等に話しかけ、意見交換し、「守る防災」への意識の共有化、さらに流域のネットワーク化

家族のコミュニケーション
災害に備えてチームワークをよくする

防災道具、高齢者、要援護者の位置の確認と共有

自治管理
・各戸アンケート
・足の悪い方とか寝たきりの方とか

普段からの近所づきあいを深め、助け合う力を養う (松尾委員)

昔からの集落だけでなく、新しい集落の人々に防災訓練に参加してもらおう
情報を流してあげる

災害時要援護者施設への連絡体制の整備

自治会による地域の災害時要援護者などの把握 (歯黒委員)

企業との連携

企業からの協力を引き出す
・企業の大売り出し
・銀行等の支援企画(預入時の利率UP)(期間限定)…防災月間等 (杉本委員)

ツールボックス

北向きの雨
台風が南を通ったら日
野川流域に雨が降る

非常持出リュックの用意

家に居る者、留守を守っ
ている者にも知識を身
につける

普段から川の事を知り、
危機意識を持つ

水、洪水に学ぶ
逃げるが勝ち
(先人の知恵に学ぶ)

家の出入り口への防災
に必要な備品の設置
(大橋委員)

災害を考慮した家づく
り
(中井委員)

その他(公助に期待すること)

土地利用

新規住宅開発にあたり
ハザードマップを活用
した開発行為を指導す
る (成宮委員)

地域の地形や土地利用
の状況を開発時に買い
手に伝える仕組み

土地に残されている伝
導を、記録として伝記の
ように作るとともに、デ
ジタル収録し、自分が安
全地帯を見つけだせる
工夫 (成宮委員)

土地利用規制を行うな
どして、住む人にそこが
どういった所なのか知
る

家を建てる時に水害を
受けない所に建てる
植林に努める(水源涵
養)

歴史上、地形上、治水上
困難が多い地域への都
計、農振による用途規制

開発と防災の関係をし
っかりと把握する必要
がある

気軽に行ける避難所づ
くり (北井委員)

水害学習の拠点施設を
造る (中井委員)

緊急避難ための自主避
難所の選定

災害時要援護者のため
の避難所設置

予算の確保

草刈補助率を高めるこ
と(高齢化社会対応)
(成宮委員)

国の予算をもらわな
あかんこともある
(河川改修…)

防災の為の予算確保
(大変難しいことでは
あるが…)

「三方よし」の精神
(近江商人の家訓から)
・売り手(行政)よし
・買い手(住民)よし
・世間(地域)よし
(杉本委員)

自分で守る
みんなで守る
社会で守る
(松尾委員)

災害で人命を
失わないために
(杉本委員)

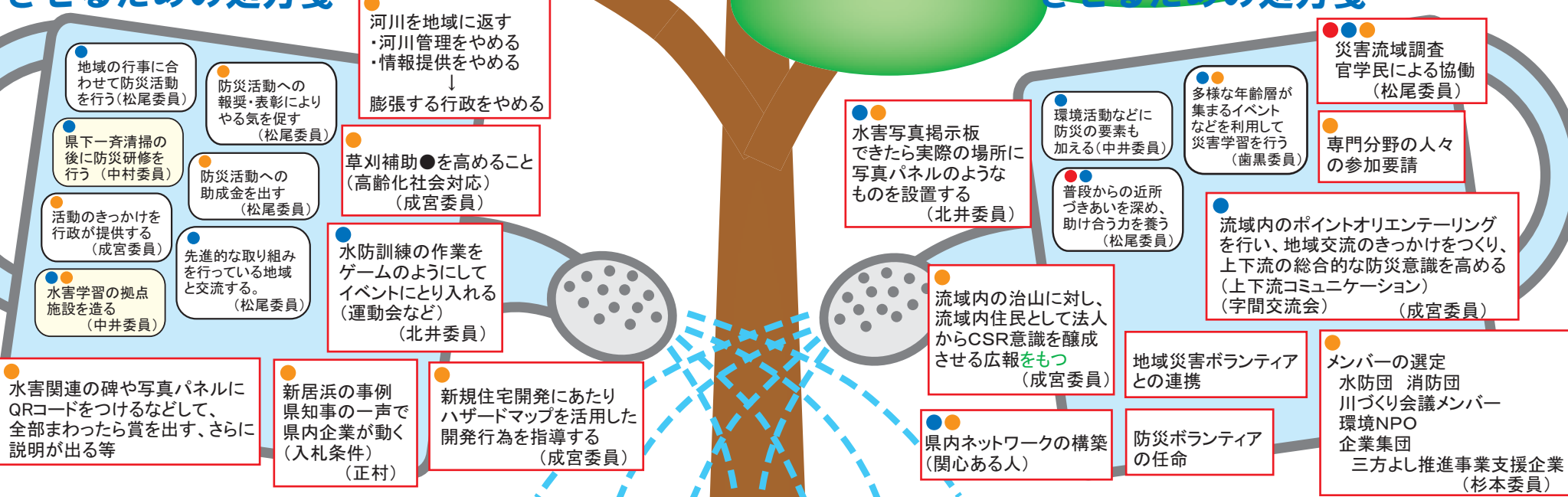
人の命を失わない

- 自分でできる
- 地域でできる
- 行政の役割

地域防災力

メニューを定着・維持・発展させるための処方箋

メニューを定着・維持・発展させるための処方箋



地域防災力を向上させる方策(メニュー)



※黄着色の枠は、実際に行われているもの

Bグループ

防災組織つくる
気づき→防災組織
先人の知恵

地域の情報共有・伝達による

水害は起こることを知る
↓
水防会をする

気づき(予防)する
ための情報を発信
両方あるリスク

- 自分でできる
- 地域でできる
- 行政の役割

地域防災力

きっかけは与える
けど続かない
↑
どう支援すべきか

どう地域に伝達していくか?
そのために行政が...

どうリーダーを作るか?
意識を高めるか?
必ず災害は来る!

地域防災力
↓
消防団 どうテコ入れするか
↓
自主防災組織

この会議を住民に
↑
行政支援

由良川
本→人に来てもらう
→人の体験
実際に見に行く

団体ができてきた
↑
できていない所に
どう支援する?

日野川
竜王町だけある

メニューを定着・維持・発展させるための処方箋

メニューを定着・維持・発展させるための処方箋

- 地域の行事に合わせて防災活動を行う(松尾委員)
- 防災活動への報奨・表彰によりやる気を促す(松尾委員)
- 防災活動への助成金を出す(松尾委員)
- 先進的な取り組みを行っている地域と交流する。(松尾委員)
- 水害学習の拠点施設を造る(中井委員)
- 活動のきっかけを行政が提供する(成宮委員)
- 県下一斉清掃の後に防災研修を行う(中井委員)
- 住民団体への資金援助のきっかけを与えるその後、どういったフォローをすることで活動が継続するのか!
- そういった形のある知恵を実際につくる仏壇の滑車

- 地域ボランティア組織をつくり、地域プロデューサーの育成
出前講座
- 会議に自治会長さんに来てもらう
- 各地域で持っている知恵
↓
書いて残さなアカン
地域のコミュニケーション
- 出前講座
- 昔の家を子どもも外人もなつかしいと言う
- 国の予算をもらわなアカンこともある(河川改修...)

- 環境活動などに防災の要素も加える(中井委員)
- 多様な年齢層が集まるイベントなどを利用して災害学習を行う(歯黒委員)
- イベントの中身・防災クイズ・防災ゲーム・地震体験
- 普段からの近所づきあいを深め、助け合う力を養う(松尾委員)
- 日野川に大雨が増水の計り方住民にわかりやすく伝える
- 体験した洪水の話若い方達に伝える
- 夏祭りや××産業フェアなどで防災啓発をする
- 地域防災を推進させる時に地域の悩みに応える相談にのったり、地域と行政との間を調整する人(コーディネーター?レンジャー?)
- 理由:進めていく上で住民はプロではないので、様々な困難に直面するはず。その時に後ろを押し出す仕組み(というより人)が必要

地域防災力を向上させる方策(メニュー)

① リスク情報の発信・共有

- 災害に関する情報の見方・使い方の周知(松尾委員)
- 携帯電話を用いた河川管理者への現地写真の送信(杉本委員)
- 行政ができること・できないことについての説明(成宮委員)
- 半鐘によるリアルタイム情報の伝達(大橋委員)
- 地域独自の避難判断の目安の共有(お地蔵さまなど)(大橋委員)
- 浸水想定表示板の設置
- 洪水位標による水害記録の伝承
- 村日記や字誌などによる水害記録の伝承
- 共有(住宅、集落、行政の各課)伝承(世代...)
↓
楽しく
- ホームページの公開は、本当に公開になっているのか?ハザードマップでの公開はそれでいいのか?
- 災害時、町内での連絡網の設置と連絡方法
高齢者、障害者の把握
住民マップの作成
- 防災道具、高齢者、要援護者の位置の確認と共有
- 子供たちへの伝承
たとえば学校教育とか地域の活動とか他の団体との協力
- いつも川の様子をよく知っておく

③ 地域防災力を支える仕組み

- 地区間で災害時に協力し合う防災協定の締結(石津委員)
- 新興住宅地における防災組織づくり(中井委員)
- 地元企業に寄付金を募る仕組み(中井委員)
- 地元の企業が参画した自主防災組織づくり(中井委員)
- 防災活動を優先できる企業のバックアップ体制の構築(杉本委員)
- 緊急避難のための自主避難所の選定
- 災害時要援護者のための避難所設置
- 災害時要援護者が参加した防災訓練の実施
- 災害時要援護者施設への連絡体制の整備
- 昔の生活の知恵を次世代に伝える
- 昔の生活の知恵が参考になる
- 家族のコミュニケーション
災害に備えてチームワークをよくする
- 水害時、台風時等、上流から下流への知らせを早く伝える
- 防災に関する自治会活動が大切
- 協働による「自主防災組織づくり」
また、その役割が大切
- 自主防災組織の活動の相談役や後押し役の設置
- 集落での防災活動
火事だけでなく水防や地震も一緒にするとか
- 家を建てる時に水害を受けない所に建てる
植林に努める(水源涵養)

② リスク情報の実感

- 川を見回り、情報を管理するレンジャーの配置(一般傍聴)
- 自主避難のためのルールづくり
・浸水の目安のお地蔵様
・半鐘による伝達(大橋委員)
- 自治会による地域の災害時要援護者などの把握(歯黒委員)
- 家の出入り口への防災に必要な備品の設置(大橋委員)
- 災害を考慮した家づくり(中井委員)
- 企業と連携した避難所の設置と避難訓練
- 住民自身で河川を観察し、避難を行う仕組み
- 若い世代や新興住宅の住民等に話しかけ、意見交換し、「守る防災」への意識の共有化、さらに流域のネットワーク化
- 歴史上、地形上、治水上困難が多い地域への都計、農振による用途規制
理由:治水上問題のある所から住宅地になっている
- 危険箇所の点検
- 地域のリーダーを育てる
防災力を高める
- ・リュックの非常持出を準備する
・訓練に参加する
・防災リーダーの育成
・河川の流域毎に右岸、左岸に連携組織を作る
- 非常持出しリュックの用意
- 家に居る者、留守を守っている者にも知識を身につける
- 自己管理
先ず自分の身を守る
家族を守る
地域を守る

- 夜間の防災訓練(松尾委員)
- 河川改修の進捗に応じた防災活動の実施(松尾委員)
- 自分の地域の危険箇所などを知るDIG(災害図上訓練)の実施(中井委員)
- ハザードマップの内容等についての出前講座(成宮委員)
- 洪水体験を思い出させるための祭の開催(中井委員)
- 防災訓練で知識を身につける
- 避難訓練に参加する
- 発信する行政と住民との信頼関係の確立
住民間の信頼関係の確立
- ちょっとした工夫、アイデアを出し合って自己啓発
- 川や山にゴミを出さない
- 山、川など草刈をしたり美しくしておく
- 琵琶湖の増水、溢水対策も考える必要がある
- 小学生向き学習をする
地震が起きる仕組みとか知識を身につける
- 降雨時での防災活動の実施
→被害時に近い状況での避難活動を体験し、問題点、課題を知る
- 自分たちの地域は自分たちで守る
お互いが助け合って安全を確保する
各流域毎に連携できるようにする
- 自治管理
・各戸アンケート
・足の悪い方とか寝たきりの方とか

- 洪水ハザードマップを活用した災害訓練
- 住民協働による洪水ハザードマップづくり
- 三世交代による水害体験の伝承
- 副読本を活用した学校での防災教育
- 小学校の授業での水害学習会
- 地域での水害学習会の開催
- 会議所には、必ずハザードマップを掲示しておく
- 竜王町では、防災の配布がされたが、だれも見られる場所に置く
- 水、洪水に学ぶ逃げるが勝ち(先人の知恵に学ぶ)
- 住民の危機意識の継続が難しいので、定期的に交換会や訓練を行う
- 普段から川の事を知り、危機意識を持つ
- 水害が起こる、被害を受けるかもしれないという声に住民が目覚める
異常気象、台風、竜巻、集中豪雨
- 地域のマップ(危険箇所)や老人、子供等と情報の共有化
地域の経験から生まれた蓄積に触れる機会や地域を歩く機会をつくる
- 生徒自ら自分の親、祖父母から水害体験、工夫を聞き、自分達でできることを考えるプログラム
理由:教えてもらうだけでは受け身になってしまう。
行政や業者が集められない情報が集められる。

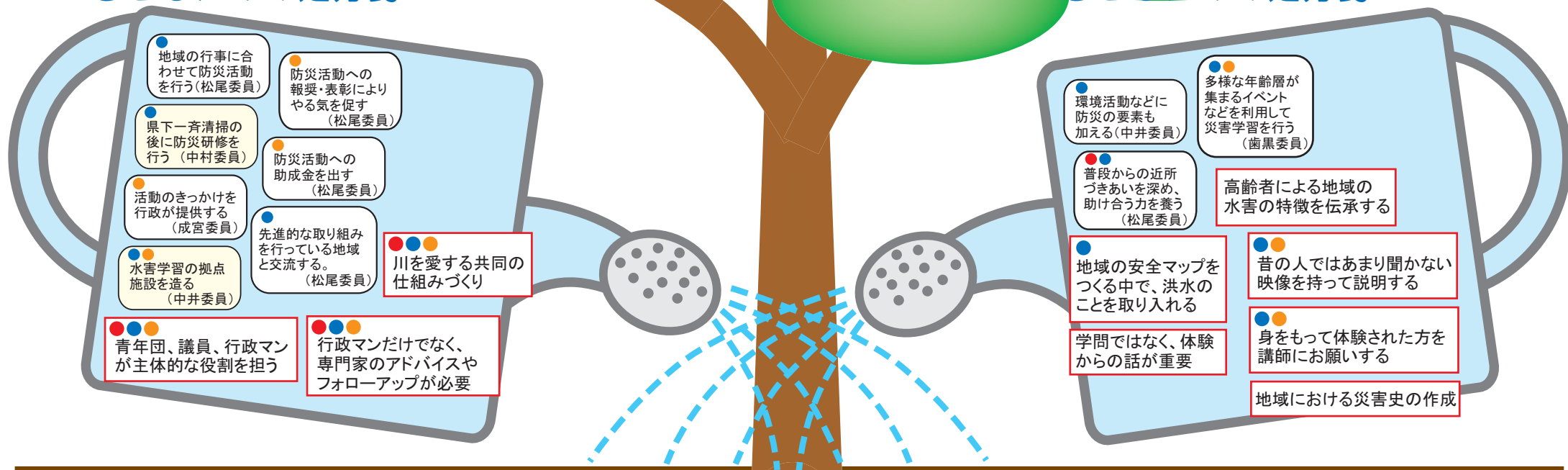
※黄着色の枠は、実際に行われているもの

地域防災力

- 自分でできる
- 地域でできる
- 行政の役割

メニューを定着・維持・発展させるための処方箋

メニューを定着・維持・発展させるための処方箋



地域防災力を向上させる方策 (メニュー)

① リスク情報の発信・共有

- 洪水予報、避難判断水位情報の提供
- 水防警報の発表水防区域の公表
- 浸水想定区域図の公表
- 洪水ハザードマップの配布
- リアルタイムの雨量水位情報の発信
- 携帯電話を利用したリスク情報の発信

- 災害に関する情報の見方・使い方の周知 (松尾委員)
- 携帯電話を用いた河川管理者への現地写真の送信 (杉本委員)
- 行政ができること・できないことについての説明 (成宮委員)
- 半鐘によるリアルタイム情報の伝達 (大橋委員)
- 地域独自の避難判断の目安の共有 (お地藏さまなど) (大橋委員)
- 浸水想定表示板の設置
- 洪水位標による水害記録の伝承
- 村日記や字誌などによる水害記録の伝承

- 地区間で災害時に協力し合う防災協定の締結 (石津委員)
- 新興住宅地における防災組織づくり (中村委員)
- 地元企業に寄付金を募る仕組み (中村委員)
- 地元の企業が参画した自主防災組織づくり (中村委員)
- 防災活動を優先できる企業のバックアップ体制の構築 (杉本委員)

③ 地域防災力を支える仕組み

- 緊急避難のための自主避難所の選定
- 災害時要援護者のための避難所設置
- 災害時要援護者が参加した防災訓練の実施
- 災害時要援護者施設への連絡体制の整備

自主防災組織の活動の相談役や後押し役の設置

● 地域の特徴を出した仕組みづくり

- 川を見回り、情報を管理するレンジャーの配置 (一般傍聴)
- 自主避難のためのルールづくり
・浸水の目安のお地藏様
・半鐘による伝達 (大橋委員)
- 自治会による地域の災害時要援護者などの把握 (歯黒委員)
- 家の出入り口への防災に必要な備品の設置 (大橋委員)
- 災害を考慮した家づくり (中井委員)

- 企業と連携した避難所の設置と避難訓練
- 住民自身で河川を観察し、避難を行う仕組み

昔からの集落だけでなく、新しい集落の人々に防災訓練に参加してもらう情報を流してあげる

● 防災のための予算確保 (大変難しいことではあるが...)

② リスク情報の実感

- 夜間の防災訓練 (松尾委員)
- 河川改修の進捗に応じた防災活動の実施 (松尾委員)
- 自分の地域の危険箇所などを知るDIG(災害図上訓練)の実施 (中井委員)
- ハザードマップの内容等についての出前講座 (成宮委員)
- 洪水体験を思い出させるための祭の開催 (中井委員)

● 町内イベント等の際に堤防(該当地域のみ)を通る

● 想定される洪水の状況に応じた対策を考える (内水、洪水(破堤))

● 訓練を行う時に実際の現象を考えて避難所や経路を考える

● リアルな状況での訓練

● 訓練がマンネリにならない様

- 洪水ハザードマップを活用した災害訓練
- 住民協働による洪水ハザードマップづくり
- 三世交代による水害体験の伝承
- 副読本を活用した学校での防災教育
- 小学校の授業での水害学習会
- 地域での水害学習会の開催

● ハザードマップは、地元の住民の方々との共同作業で作る

ハザードマップの作成方法

● 各集落によって状況が異なるので集落(身近な)単位での研修や個別指導

● 直近の水害を参考にした防災訓練の実施

● 訓練(消火や地震避難)の工夫(想定体重みづけ)

● 一つの集落だけでなく流域単位の訓練

訓練方法の改良

- 開発と防災の関係をしっかりと把握する必要がある
- 河川の危険性について、行政情報を多くする
- 行政、マスコミとして水害への情報発信(せめて地震並みに)
- 情報(雨量や水位)を知りやすくする方法
- 降雨状況に応じた災害発生への対応

地域の状況に応じたわかりやすい情報発信⇒行政

※黄着色の枠は、実際に行われているもの